

村械科闘争委員会のこの面の闘争報告と
それの若干の総括、これから我々の方針
を述べたいと思ひます。

理斗委の一定程度の衰退の中で、林斗委
は独自の同盟登校、ア号館内の井上清打
痕会、山猫スト(反安保-沖縄戦争)ブラ
クシヨ活動を盛んに貫徹してきた。し
かしながら、現在の状態は佐ト談米以後、
テスト、実験、レポートに近づくから、
日常性に埋没している。この様な事柄に対
し再度は、ギリと自分に向ひ返す必要があ
るのではないが、反戦母-佐ト談米にお
いて明確な運動をなし得るか、たのはなぜ
か?

それは、理斗委、林斗委という組織の向
題よりも、もっと根本的な事柄の自分自身
のつきつめがなからず、たからずなうたうら
か。今の社会には多くの労働者がいる。し
かし、自分らの存在を、あまり認識し、自分
ら自身の解放に向つて真に闘つてい
る人、すなわち労働者階級としての自覚
は、物事かしかいなり。この事は我々学
生にも云えると思ふ。目下には万人にも
およぶ学生がいるが、多くの学生は自分の
存在にあまりにも甘んじているのではな
いだろうか。そしてこの事柄を論じているあ
なたがた、又活動家にも含まれて、この事は
否定できない。我々はこの前大論議の上
に立ち、その限界性に対して勇敢に自分ら
が
いどみ、自分らの人間解放を真に受けが
る学生のため、不断に闘争を遂
げなしてゆくべきである。以上
の人間の具体性の確立、人間解放の實現の
ため、我々は、ギリギリまで、反人民の資
本主義、帝国主義打倒のため、ブルジョア
ジーの反動性を暴露し、粉砕してゆく闘
争を組んで来た。
自分らの存在に規定されてくる所の闘争に
おいて、我々は吉田体制の犯罪性、反動性

をあげ出し、粉砕してゆく闘争を場所的
に行なつて来たし、政府及び文部省に対す
る我々の教育政策に対しても、具体的には
産学協同政策、大学立憲に対しても、多く
の学生に問題提起を、大衆的な闘争を貫
徹して来たと思ひます。

一、まずまず帝國主義の姿を現し、軍
艦の核基地付自由使用(軍艦)、安保自動
延長を行つたことによつて、一、まず日本
の帝國主義的再編成化をすすめて、日本の
資本主義化、東南アジアの経済的、軍事的侵
略を公然と論議しようとして、日本帝
國主義者に対して我々は、被る労働者、感
づる農民、被る市民、被る高橋生と連帯して
庶人民的運動である反安保、沖縄戦争を成
果にたかたかとなし、可能な我々のこ
れからの方針、被る同様に、自分らの存
在の自覚、自己自身に規定されてくる所の
特殊性に心をこめて、場所的にいろいろなん
な闘争をくりかへし、同時に在野階級の再編
成化のため、真の人民の前衛組織の創出を
「庶人民的運動」を具体的に「おこなう」
ことを通じて、自分らの階級的自覚、自
己からの人間解放を得るべきことが集まるのでは
ないだろうか。党内主義=逆剣、万年来
成論をきけば、左翼階級から我々はみだし
「労働闘争」本稿の闘争論を批判し、一、
クラシム、クラクシヨ活動の積極的
な運動をつつてゆく。自分らが闘争の主体
となること、今、要求されている

◎屋々の地着は、水米主権の自主回復
に参加しよう!